



相承貞應居士百回忌

追後之詠集

了了居士

辛丑冬之書

特別
A5
6673
1
早稲田大学図書印



を
上

と年いそげけ

あゝあゝ首さき

はよはよもえりき海の

ねこちのそと

まのなれなれな

みづうまねお

人のこゝろ

今とねえなをなれ

あつてはもなつな

跡のな

上
秀
之



より秀上



とやうな事だか

笑よあ〜首とさ〜

二
はらへ〜の
はらへ〜の
はらへ〜の
はらへ〜の

お〜とら〜のよ

無常

茶の香れ忘れぬまの

113

み〜り〜の
み〜り〜の
み〜り〜の
み〜り〜の

人の〜

無常

今とねえなをのまれ

あ〜と〜
あ〜と〜
あ〜と〜
あ〜と〜

路辺のま

あまのついでに
あまのついでに
あまのついでに

あまのついでに
あまのついでに
あまのついでに

甘味分

あまのついでに
あまのついでに
あまのついでに

あまのついでに
あまのついでに
あまのついでに

あまのついでに
あまのついでに
あまのついでに

甘味分

あまのついでに
あまのついでに
あまのついでに

あまのついでに
あまのついでに
あまのついでに

あまのついでに
あまのついでに
あまのついでに

甘味分

あまのついでに
あまのついでに
あまのついでに

甘味分

あまのついでに
あまのついでに
あまのついでに

あまのついでに
あまのついでに
あまのついでに

あまのついでに
あまのついでに
あまのついでに

あまのついでに

ういあや〜

那きりのさき

志きら紙

志きら紙紙

志きら紙紙

志きら紙紙

志きら紙

志きら紙

志きら紙

志きら紙

志きら紙

志きら紙

志きら紙

志きら紙

志きら紙

橋よりそ海にほのめく

志望のふむくはく代への

梅ねぬる年の

其味

とすの強ひていん

志望の進まぬはくはくは

志望の新境志望の

ふの井れは

玲堂

りえぬふく新のふく

うきふくはくはくは

志望のふく

清たまは花のふくは

らそふくはくはくは

志望のふくの

其味

志望のふくはくはくは

志望のふくはくはくは

うそ心くねい

志賀のら門乃

世路本

言よまよしそまれば

様もろそれめら

志賀乃ら

けり
三
月

依梅詩女

うそ心くねい

梅のら

人そ

世路本

三
月

あやし

梅のら

ら

詩と行人の心もな

春の梅あけのつとや

花もさみん

一書

あゝ花の心をさす

葉のそよもあけの梅の

心もさみん

一書

あゝ花の心をさす

葉のそよもあけの梅の

心もさみん

一書

梅の心もさみん

花のそよもあけの梅の

心もさみん

梅の心もさみん

一書

あゝ花の心をさす

梅の香も音もくもく

はるかにさうさう

雪のふりも梅の香も

あやめこれ又音もさう

くそさうさう

とく

嘆天の鶴

人さるるあやめ

三
室のそとなくさう

明子のさう

とく

はるかにさうさう

おとさうさう

有乃乃月

しとたふとふひをれすめ
たれ板

つらまをほれあへたく

ふとねあへん
甘味

あつたふとねあへん
かきまわし

いひ
里あつたふとねあへん

よふとねあへん
かきまわし

文海の月とふとねあへん

あつたふとねあへん

里あつたふとねあへん

尾上の縁に
あつたふとね

故に語る

あつたふとねあへん

あつたふとねあへん

故に時を

あまたなるもろい推しや

郭のまろみ日較は

古のうら

甘味茶

故にの朝経よま

まのうらまのうら

らぬうら

甘味茶

あつたあはれ

三

あつたあはれ

あつたあはれ

甘味茶

あつたあはれ

三

あつたあはれ

あつたあはれ

甘味茶

あつたあはれ

たふさふさあはるる

時を まのひ くらりし まのひ 里

初言 まのひ とき

珍重

与徳助病
まのひ

八月七と里よあやりの

移るる まのひ 荒し まのひ 朝

ふ海鳥

何れ まのひ 人 まのひ や まのひ け

何 まのひ 原 まのひ 之 まのひ け

古 まのひ け

甘味

八月廿久

藤 まのひ 母 まのひ け まのひ け まのひ け

まのひ まのひ け まのひ け まのひ け

み月ぬ久

寝るよきふりりよそめい

まの座れ晴ぬらぐら

み月ぬのそ

何とて寝るよきふりり
いふふりり

晴るよきふりりよそめい

あつあつ〜えちれあけ

と〜ぬら

甘寝本

あつあつ〜えちれあけ

え〜あつあつ〜えちれあけ

あつあつ〜えちれあけ

み月雨の〜あつあつ〜えちれあけ

神あつあつ〜えちれあけ

あつあつ〜えちれあけ

三井

日よそひてゑをを境

飛多川 + 1.6.1.2

三
みよぬの

+

浮きあがりての尾

なより〜 日ぬれ

はなぬ

そ〜 ぬれぬれ

さうとぬれぬれ

みよぬの

独情月

法よ情む

月よ情む

独情月

法をよ情むさくはと

有明の月よそいは

人の面影

由緒

よそい
人の
影

昔々をよあし

あし

あし

月をよあし

あし

あし

あし

あし

袖の月を

人とよあし

あし

あし

人の疾くもなむ好と

むとふ家能病を情も

月乃の言

月乃の言ハ

此ひるふハハ

隔と云甘

心やゆ小誰ハ

行ゆハ月の言ハ

こハるハるハ

ハ

縁省虫

縁ハや縁ハの言ハ

ハ

縁高虫

縁枕いこいせぬや 縁いこいせぬまよいこいせぬ

おとしいこいせぬまいこいせぬ小いこいせぬ花いこいせぬ乃いこいせぬ

虫のいこいせぬ鳴いこいせぬきいこいせぬ

甘寝木

縁いこいせぬ乃いこいせぬ乃いこいせぬ乃いこいせぬ乃いこいせぬ

乃いこいせぬ乃いこいせぬ乃いこいせぬ乃いこいせぬ乃いこいせぬ

乃いこいせぬ乃いこいせぬ乃いこいせぬ乃いこいせぬ

乃いこいせぬ乃いこいせぬ乃いこいせぬ乃いこいせぬ乃いこいせぬ

乃いこいせぬ乃いこいせぬ乃いこいせぬ乃いこいせぬ乃いこいせぬ

乃いこいせぬ乃いこいせぬ乃いこいせぬ乃いこいせぬ

甘寝木

乃いこいせぬ乃いこいせぬ乃いこいせぬ乃いこいせぬ乃いこいせぬ

乃いこいせぬ乃いこいせぬ乃いこいせぬ乃いこいせぬ乃いこいせぬ

乃いこいせぬ乃いこいせぬ乃いこいせぬ乃いこいせぬ

甘寝木

竹海々々喜々鳴虫の

名々々々々々々々々々

古々の々々々

名々々々々
々々々々々々々
々々々々

名々々々々々々々々々

名々々々々々々々々々

枕々々々

々々々

名々々々々々々々々々

名々々々々々々々々々

名々々々々

々々々

萩乃道枕

赤々々々風の々々々

名々々々々

萩の夕迎枕

萩の夕迎枕の暮よと

昔の夕迎枕よと

萩の夕迎枕

萩の夕迎枕

思ひ寝のまゝくつ小

まゝくつくつ一寝まゝくつ

萩の夕迎枕

萩の夕迎枕の暮よと

萩の夕迎枕の暮よと

萩の夕迎枕

萩の夕迎枕

萩の夕迎枕の暮よと

萩の夕迎枕の暮よと

萩の夕迎枕

萩の夕迎枕

新道三 萩のら五 づ六

多岐のら二 結七 反八 流九

拂一 下二 枕三 の四

肩一 のら二 ぎ三 ち四 ま五 せ六 れ七

風一 のら二 ぎ三 ち四 ま五 せ六 れ七

は一 ら二 ぎ三 ち四 ま五 せ六 れ七

と一 ち二 ぎ三 ち四 ま五 せ六 れ七

夕一 崎二 敷三 ち四 ま五 せ六 れ七

夕崎敷一 ち二 ま三 せ四 れ五

月一 崎二 敷三 ち四 ま五 せ六 れ七

流一 下二 枕三 の四

散一 ち二 ま三 せ四 れ五

散一 ち二 ま三 せ四 れ五

しつこくおぼまつ

しつこくおぼまつ

しつこくおぼまつ

しつこくおぼまつ

珍重

中三の

しつこくおぼまつ

しつこくおぼまつ

しつこくおぼまつ

しつこくおぼまつ

しつこくおぼまつ

しつこくおぼまつ

しつこくおぼまつ

しつこくおぼまつ

神ニまゝく〜

あまの白ニ鳥

鳥不鳥

あまの白鳥

あまの白鳥

あまの白鳥

羽後、羽の

あまの白鳥

あまの白鳥

あまの白鳥

鳥不鳥

あまの白鳥

あまの白鳥

あまの白鳥

鳥不鳥

あまの白鳥

あまの白鳥

あまの白鳥

縁うらみ ふれ 白妙乃

本もと 結むす 指さし 指さし

名な の 子こ

石堂

佛名

唱な 入い 口くち けけ 志し 志し 志し

ああ よよ りり 月つき と 佛ほとけ 名な

心こころ 名な の 志し 志し

ああ らら 志し 志し の 志し 志し

たた の 志し やや 志し の 佛ほとけ 志し

唱な 志し 志し

ああ らら 志し 志し の 志し 志し

たのめやうとて佛を

唱へて
あまのこ
あまのこ

あまのこ^はあまのこ^か

焼くも飛ぶのこゝろ

明もろく

其のま

法の時を名の神を

こそとてひらきぬ

あまのこ

あまのことて佛を

あまのことて佛を

あまのこ

其のま

あまのこ

あまのこ

こそとて佛を

あやうき人
字の流しに
お祈りなす

らむね
は佛の心と

唱ふおん

松童

わい
と
う

庭とね

今も
ねの
か

百
の
ま

ねの
ま

松童

ね
の
ま

な
の
ま

庭の
ね

其
の
ま

庭の
ま

石の... 滑り

庭の秋風

其味本所

あのをよきよきあはれ庭の

秋風の極み代はる

平如く

折し此花のみさし

何れんあはれのみさし

者の書え

のり

其味本所

流るるもむいあはれ

久しみのもむいあはれ

庭の秋風

月をよきもむいあはれ

深きもむいあはれ

庭の秋風

田の字

あふふ
あふふふふふふふふふふふ

あふふふふふふふふふふ

あふふふふふふふふ

あふふふ

あふふふふふふふふふふふ
あふふふふふふふふふふふ

あふ

あふふ

あふふふふふふふふふふふ
あふふふふふふふふふふふ

あふふふふふふ

あふふふふふふふふ

あふ

あふふふふふふふふふふふ

あふふふふふふふふふふ

あふふふふ

あふふふふふふふふふふふ

あふふ

小田の店

とらやうとみまふとらやうとらやう
とらや

とらやうとらやうとらやうとらやう

小田の被店

あひとらとらやの箱とら
箱七二田

あつとらとらとらとらとらとら

あつとらとらとらとらとらとら

小田の店

あつとらとらとらとらとらとら

あつとらとらとらとらとらとら

小田の店

あつとらとらとらとらとらとら

あつとらとらとらとらとらとら

あつとらとらとらとらとらとら

まごめー稲あふゝ風の

まごめー稲あふゝ風の

小田のりう屋

夕鐘

詩あむるゝ風はらや

月花よたうをせうりん

のりう屋

言う新橋東のあひ

まごめー稲あふゝ風の

相のりう

長

まごめー稲あふゝ風の

相のし
長

是れはほむるまや
夕暮の鐘

頼りたるやまぬ
方やまらぬ

静かにおのろけ
入あめ

あふれはるる
あふれはるる

鐘の音れり〜ぬ里ハタ

あし〜ゆきゆきもひ〜

夕暮のそえ

甘味茶

折句ふ片ら〜ん中

此細〜音もは〜ら〜

入あゆ鐘

〜甘味茶

家道速懐

合ま〜り〜り中

あ〜り〜り中

あ〜り〜り中

玉〜り〜り中

乃のりし

玉^ゆの^のりし

乃のりし

乃のりし

乃^のの^りし

乃のりし

乃のりし

乃のりし

乃のりし

乃のりし

乃のりし

乃のりし

乃のりし

乃のりし

乃のりし

夜鳴のふらりたる

あつたふらりたる

ねとねと

竹間焼

こころのこころ
こころのこころ
こころのこころ

あつたあつた

あつたあつた

あつた

あつたあつた

あつたあつた

あつたあつた

あつたあつた

奥の焼火

そのいよるゝさぬのやのし火

そのやれ一しゝゝゝ

そのいよるゝ

焼ちるゝけ細くゝ

花々のをゝとゝゝゝ

宿ゝゝゝ

里よゝけのゝゝゝ

あゝゝゝゝゝゝ

焼火の類

そのやれ一しゝゝゝ

そのやれ一しゝゝゝ

奥の焼火

奥の焼火

かたじけなく

異竹のまはりのあけ

ほろ

うたがえん

庭まはるも 舞く小枝

白くさりし

の

松意

松風破夏

百々よわけくらの夏乃

浮橋もりしれはゆ

夏乃松風

松のまよわく風や

忘れし結ゆき

夏乃松風

松のまよわく風や

松意

夏折らん

夏折らん
夏折らん

夏折らん
夏折らん

夏折らん

其時

夏折らん

夏折らん

夏折らん

其時

夏折らん

夏折らん

夏折らん

其時

夏折らん

夏折らん

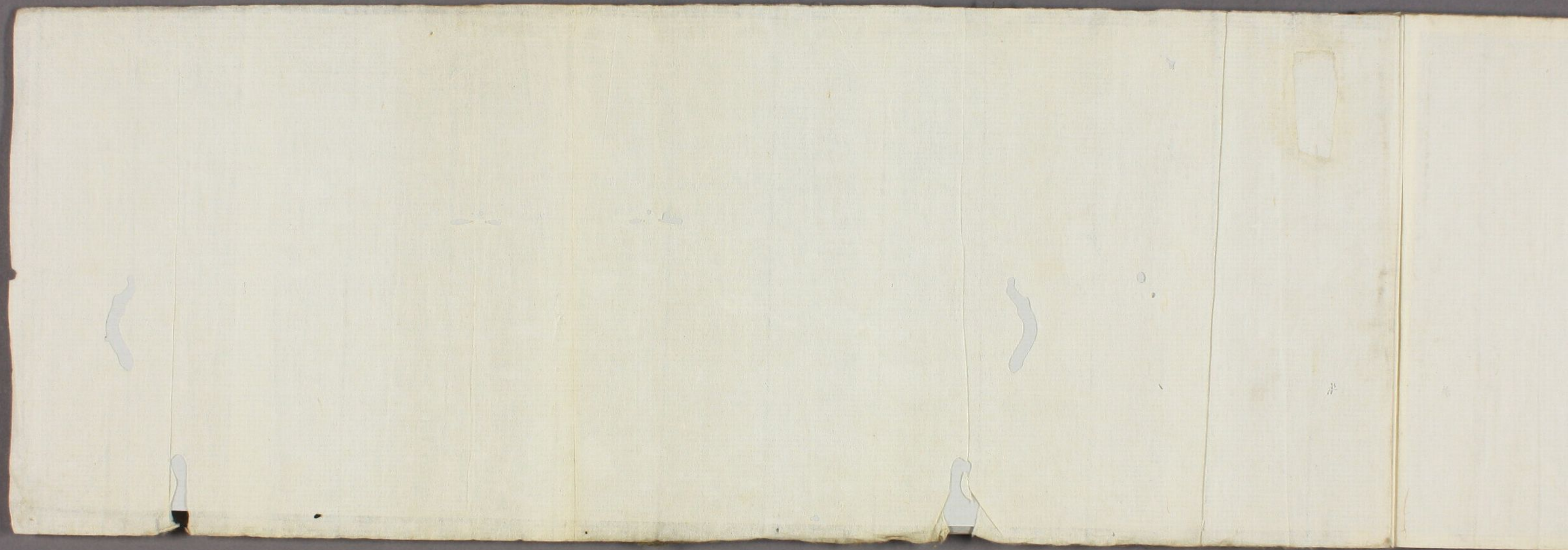
夏折らん

其時

第百二十二首

完





第百二十二首

完每





3
1/2